

JCMR KYOTO Vol. 4 レクチャー・シリーズ

「こえ」をとらえる - 電子音響における「声」 -

レクチャー 〈川崎 弘二、清水 慶彦〉

- 休憩 -

作品上演 〈音響：能美 亮士〉

1：武満 徹 「ヴォーカリズム A・I」 1956 / 4' 09"

2：松下 真一 「黒い僧院」 1959 / 21' 03"

3：外山 道子 「葵の上」 1959 / 7' 13"

4：一柳 慧 「Extended Voices」 1967 / 11' 12"

5：湯浅 譲二 「ヴォイセス・カミング 第2曲 インタビュー」 1969 / 7' 28"

6：鈴木 治行 「Challenger」 1987 / 3' 24"

7：湯浅 譲二 「白の研究 第1曲 海暮れて」 1987 / 6' 31"

8：宇都宮 泰 「トクサノ カンダカラ 91 pieces of C」 2000 / 2' 59"

9：檜垣 智也 「Tsunami」 2005 / 4' 49"

10：松井 茂 「音声詩 時の声」 2009 / 1' 30"

11：フォルマント兄弟 「フレディーの墓 / インターナショナル」 2009 / 5' 18"

◎開演前・終演後上演：藤枝 守「夜の歌 其の三」 1994

| ゲスト：川崎 弘二

1970年大阪に生まれる。2006年に「日本の電子音楽」(愛育社)を、2009年に同書の増補改訂版を上梓。

| 音響：能美 亮士

大阪芸術大学音楽学部音楽工学コース卒業。Music of New Referenceディレクター。

◎録音関連作品「神下山 高貴寺ザ・ライヴ第11回[FINAL] 百千万秋楽」(<http://www.utsunomia.com/y.utsunomia/koukiji.html>)

◎Music of New Reference(<http://music-reference.net/>)

2007年「灰野敬二プレイズ ガムラン」(出演：灰野 敬二、宇都宮 泰、東瀬戸悟)

2009年「Music of New Reference 2009 in KYOTO」(出演：宇都宮 泰、三輪 真弘、川崎 弘二、岸野 雄一)

2010年「鈴木昭男 Sound Report」(出演：鈴木昭男、東瀬戸悟)

| JCMR KYOTO (Japan Contemporary Music Research KYOTO)

邦人作曲家の研究と作品の普及を目的に、京都市立芸術大学大学院の学生を中心として結成されたグループ。これまでにプレ公演『武満徹vs三善晃』(2007年京都市立芸術大学講堂)、本公演 Vol. 1『Emic/Etic 独奏曲の東西』(2009年8月2日ウイングス京都)、Vol. 2『黛敏郎と矢代秋雄2人展』(2009年11月22日ウイングス京都)、Vol. 3『早坂文雄と武満徹2人展』(2010年4月11日ARS LOCUS)を開催している。

清水 慶彦

大阪芸術大学芸術計画学科を経て京都市立芸術大学作曲専攻を音楽学部賞・京都音楽協会賞を得て卒業。大学派遣によりブレーメン芸術大学(ドイツ)に留学。Y. パクバーン、G. シュタインケらの下で作曲ならびにコンピュータ音楽について研鑽を積んだ。09年3月京都市立芸術大学大学院博士課程修了。論文「黛敏郎の音列技法 - 音列にもとづく堆積的音響の手法」にて博士号(音楽)取得。

近年では声明や雅楽など日本の伝統音楽の要素を援用した作品に取り組んでおり、東洋音楽と西洋音楽のクロスオーバー的研究・実践者を支援する「小倉理三郎音楽奨学金制度」受給者に選抜された。現代音楽グループ<クラムジカ>、邦人作品の演奏・普及をおこなう<JCMR KYOTO>などのメンバーとして京都を拠点に音楽活動をおこなっている。2010年、Studio N. A. T レーベルより作品集CD『六相円融』をリリース。現在、京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師、同志社女子大学音楽科嘱託講師。

竹内 直

沖縄県立芸術大学音楽学専攻(民族音楽学)卒業後、京都市立芸術大学大学院音楽研究科に進学。修士課程を経て現在は同研究科博士後期課程(音楽学領域)に在籍中。専門は洋楽創作史を中心とする日本近代洋楽史および現代音楽論。2009年度柴田南雄音楽評論賞奨励賞受賞。

増田 真結

京都市立芸術大学を卒業(音楽学部賞、京都音楽協会賞)、及び同大学院音楽研究科修士課程を修了(大学院賞)。在学時、明治安田 クオリティオブライフの奨学生に選出、修士課程在学中にはドイツ・ブレーメン芸術大学へ交換留学。現在、同大学大学院音楽研究科博士(後期)課程に在学中。

これまで、第10回東京国際室内楽コンクール第3位入賞、第23回現音作曲新人賞受賞、第19回奏楽堂日本歌曲コンクール一般の部第2位入賞、第78回日本音楽コンクール作曲部門入選。ドイツSyke市における、音を使ったインスタレーションの展覧会<Klanginstallation>に作品を招待出品。これまでに作曲を港大尋、青島広志、佐藤眞、松本日之春、前田守一、中村典子、ヨンギ・パク=バーンの各氏に師事。日本・ロシア音楽家協会会員

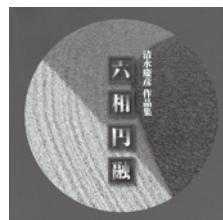


川崎弘二 編著
Japanese Electronic Music second edition
日本の電子音楽 増補改訂版

気鋭の論客5名による論文、延べ24名に及ぶ作曲家へのインタビュー(総計41名)を追加し、全面的な改稿、新発見のデータを加えて約500頁を増補した「日本の電子音楽」決定版！

戦後日本の作曲界を席巻し、多くの独創的作品を生み出した電子音楽。その全容を集大成した全1,100ページの大著。作曲家41人への長大なインタビューや気鋭の評論家による論考、年代記、主要な作品、文献、録音など、一個人の編著とは思えない充実した内容に圧倒される。【讀賣新聞 2009年5月17日】

ISBN 978-4-7500-0354-2 発行：愛育社(2009年3月刊行)



清水慶彦 作品集
六相円融—ROKUSOUENYU—

作曲とは、音楽に導かれながら事物各々が存在し互いに共存できる理由を探す旅。
変容や再構築を経て揺るぎないものに辿り着いた六つの曲が「円融」を成す。

ピアノ独奏曲《全ての塩基配列が決定される日のために》、オーボエとピアノのための《Traverse》旋螺、ヴァイオリンとチェロのための《Radius sapientiae》寂光、ピアノ独奏曲《Wasserharfe》水琴、独奏ホルンのための《Helices (monologue I)》立螺、フルート三重奏曲《Tritoly》三柱鳥居

NAT10111 / 発売元：Studio N. A. T(エヌ・エー・ティー) <http://www.studionat.net/>